

株式会社マドンナ

B to C ビジネスモデルに対応した 生産体制の構築

婦人服などを手染めで製造していて、色の定着に蒸し機を使っていたが、人手と時間がかかっていた。そこで乾燥機を導入し、作業の効率化を図った。さらに型紙制作にはCADとプロッターカッターを導入し、時間短縮を図っている。



型紙を短時間で彫るために導入したプロッターカッター

課題

■ 色定着に手間と時間とコストが、型紙は消耗品で製作に時間がかかった

事業のきっかけ

当社は、手染めを施した婦人服や一部紳士服の製造を手がけており、中心は高温多湿な沖縄で着やすいワンピースである。手染め作業の後は色を定着させる必要があるが、従来は蒸し機を使っており、これには5~6時間かかっていた。また、この際に不織布を巻く必要があるが、コストがかかるため洗濯して乾かして再利用しなくてはならない。さらに、巻く作業にも手間がかかり、これを染職人が行っていたため、本来の仕事である染色に手がまわらない状態だった。一方、型紙は一種の消耗品であり、人気のものは消耗が早い、ひとつ彫るのに3日ほどかかっていた。こうした状況の改善が急務だった。

成果

■ 乾燥機の導入で色定着工程が4分に時間短縮



事業の取り組み～成果

まず、短時間で色を定着させるために乾燥機を導入。これにより工程が4分ほどに大幅短縮できた。また、従来の蒸し機では蒸し皺や巻皺ができることも多かったが、これがなくなって歩留まりもよくなった。さらに、浴衣などの大きめの衣類は蒸し機での色定着ができなかったが、乾燥機ではこれが可能になった。一方、現段階では素材によっては発色や皺のつき具合が変わったりするので、毎回試して確認するようにしている。型紙作成についても3D-CAD、カッティングプロッターの導入でデータ作成1時間、型彫り1時間となり、作業工程が大幅に短縮でき、型の再作成も容易になった。

展望

■ 職人が本来の仕事にまわり、型紙彫りも時間短縮へ



今後の展望

乾燥機の導入により、職人が染色作業にまわれるようになり、本来の業務により専念できるようになった。これが生産性の向上に効果を発揮すると期待している。一方で素材や形状によって皺が取れにくい場合があるため、柔らかい布を敷いたりする工夫をしているほか、新しい素材を使うときなどに試行錯誤をしたりして、さらなる品質向上を目指している。また、型紙を彫る作業を効率化するため、前述のように補助金を活用して3D-CADおよびカッティングプロッターも導入しており、こちらもさらなる本格稼働に向けて作業を進めている。今後、さらに生産性アップに役立てていきたい。



色定着が4分でできるトンネル乾燥機



店内で販売も行っている

Q 御社のモットーを教えてください

A 沖縄らしさ、沖縄の光から生まれた色にこだわり、手染めの風合いを大切にしながら物語のある服を提供する。

つむぐ × つなぐ

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。



取締役
田仲 カンナ さん

これからのビジョン

アパレル業界では安くて品質のいい商品が大量に供給されるようになってきており、当社のような業態では太刀打ちできない時代が来るかもしれないと危機感を抱いている。そこで今後はリサイクルも手がけたいと考えている。これは、顧客の所有する着物や洋服を染め直すもので、色の薄くなった部分を染めたり、汚れを隠したり、さらには柄を足したりして生き返らせる。

せる。たとえば親の形見のような着物や思い出のウェディングドレスなどの大切な品を手染めで再生することも可能だ。失敗すると大変だが、リスクも承知してもらった上で染め直しを施せば、喜んでもらえるものと考えている。今回導入した乾燥機やカッティングプロッターをこうした事業にも活用していきたい。



株式会社マドンナ

〒900-0024
沖縄県那覇市古波蔵 2-9-1
tel.098-853-7011 fax.098-853-6337



・代表者名 代表取締役 山内 光子
・資本金 3,800万円
・設立 平成15年4月
・従業員数 9人

